

おわら復興の功績紹介

川崎順二
小谷契月

富山で没後50年展



川崎順二の書簡などを展示する特別コレクション室―高志の国文学館

高志の国文学館(富山市舟橋南町)の特別コレクション室で「翁久允と没後50年 川崎順二・小谷契月」展が開かれている。八尾町に伝わる「おわら風の盆」の復興と発展に大きく貢献し、今年没後50年を迎えた医師・川崎順二と民謡詩人・小谷契月を取り上げ、小説家・翁久允が残した書簡などからその功績に光を当てている。12月中旬まで。

川崎順二(1898～1971年)は1929年に設立された「越中八尾民謡おわら保存会(現・県民謡越中八尾おわら保存会)」の初代会長。著名な文人を八尾に招いておわら歌詞の制作を依頼し、踊りの改良にも力を注いだ。当時廃れかけていた風の盆を立て直

し「おわら中興の祖」と呼ばれる。小谷契月(1902～71年)は優れたおわら歌詞を作り、八尾を代表する文化人として活躍した。今回はゆかりの史料14点を展示した。川崎が30年に翁に宛てた書簡は、おわら保存会の刊行物に翁が作っ

たおわら歌詞の掲載を依頼する内容。小谷が翁に送った年賀状もある。同館の小林加代子学委員は「翁と川崎、小谷ら八尾の人々の交友が、戦前・戦後のおわら風の盆の歩みとともにあったことを感じてほしい」と話している。